

これまでの課題・対策の視点・有識者の議論から考えられる今後の方向性

不登校施策から見てきた課題※1

市町村教委
不登校支援に対する理解と取組姿勢
不登校支援に対する理解と取組姿勢において各市町村教育委員会で差がある 等

未然防止

支援体制
不登校への理解や対応方法について学校全体で統一できていない 等

授業作り・学級経営
学習について行けず、不登校に陥るケースが少なくない 等

教員の専門性
不登校への理解、対応スキルの教員間差が大きい 等

校種間連携
引き継ぎ内容は各学校で違いがあり、円滑な接続になっていない 等

情報共有
不登校の兆しのある児童生徒の情報に担任までで止まり、全体で共有できていない 等

校内支援会
役割分担が不明確で、一人の教員の負担が大きくなる等、組織だった支援とならない状況が見られる 等

関係機関連携
医療機関や専門機関等のニーズがありながら、関係機関との連携が不十分なため、本人の状態に応じたタイムリーな連携ができず、適切な支援が遅れる状況がある 等

自立支援
教育支援センター・居場所
通所できない児童生徒への支援や、センター内で、学習できる設備や教材が十分でない状況や学習指導ができる人材がいらない状況がある 等

学校

初期対応

自立支援

子ども

社会の変化による子どもの影響
ネット社会により時間と場所を気にせずに繰り広げられる人間関係の常時接続が進み、友人との関係を維持することが難しく不安が募る 等

保護者

社会の変化による保護者への影響
ひとり親家庭や経済的困窮家庭の増加により、子育てが孤立化し、保護者同士の結びつきが希薄になっている 等

不登校支援策を考える観点※1

社会や子どもの変化に対応した学校の仕組みや機能のイノベーション

不登校支援についての学校間差・市町村間差を埋める体制とシステムづくり

不登校や特別な教育的支援の必要な子ども理解に係る教員の専門性育成システムの確立

学力不振を生まない分かる授業づくり学び直しができる切れ目ない学習支援体制の整備

通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザインの理解促進と浸透

校種間や関係機関との円滑な接続と連携の強化

不登校の子どもの自立と社会参加を目指したキャリア教育の充実

子どものみならず、保護者も安心して気軽に相談できる環境づくりと取組の充実

児童生徒の主体性を尊重した多様な教育機会の確保策についての検討

各課の不登校支援策を一元的に集積・分析し、不登校施策の方向性等を企画・立案・調整を図るシンクタンクの設定

有識者会議での意見※2

不登校児童生徒に対する教育保障について、県としての中核が必要

ハブ機能
人、もの、情報の集約

研究機能
データ収集・分析・提案、ケース支援の情報や連携先などの情報提供

人材育成機能
対教師支援

相談支援機能
従来の対面形式支援、保護者支援

連携支援
SSWを介した連携協働

オンラインサポート機能
コンテンツ、教育資源の開発野研究、接続に関する支援

※上記に係る広報活動の充実

今後の方向性

不登校支援の総合支援センターとして、心の教育センターの機能を拡充

1. 不登校に関する調査研究

・不登校に関する調査結果等のデータの収集・分析・取組等提案 等

2. 市町村教育委員会・学校の取組支援

・市町村・学校訪問による支援
・担当者研修と校内研修サポート等

3. 市町村教育支援センターとの連携強化と取組支援

・オンラインサポートの提供
・福祉部局との連携 等

4. 相談支援の充実

・より相談しやすい相談窓口
・対面による支援 等

5. 関係機関との連携強化による支援の充実

・必要な支援につなげる適切な連携

6. 支援が十分に受けられていない児童生徒への取組強化

・オンラインによるサポートを推進
・居場所の確保
・学習支援や体験活動の充実 等

7. 保護者支援の充実

・保護者交流、講演会 等

(※2 R5 第2回 高知県不登校児童生徒の多様な教育機会の確保に関する協議会議事録より抜粋)

(※1 R5 第1回不登校対策プロジェクトチーム会資料より抜粋)